

# ハダニ防除はこれだけ楽になるー岩手県リンゴ園地での事例ー

○羽田 厚<sup>1</sup>

<sup>1</sup>岩手県南広域振興局農政部

リンゴ栽培における重点防除害虫であるハダニ類は、6月以降気温の上昇とともに急激に密度が高まる。本研究は化学合成殺ダニ剤のみに頼ることなく、ハダニ類の天敵であるカブリダニ類の密度を早期から高く維持し、ハダニ類の蔓延しにくい園地の環境を明らかにすることを目的とした。カブリダニ密度を高める方法として、2つのアプローチを試みた。

1. 選択性の高い殺虫剤を体系的に用い、土着カブリダニ類の密度を高める方法を検討した。岩手県内のリンゴ園地では、ほぼ10日間隔で殺虫スペクトラムの広い有機リン剤系の殺虫剤が散布するのが慣行の防除体系である。そこで、対象害虫に対する選択性が高く、カブリダニ類に対する影響が少ない薬剤を用いる防除体系を実施した。その結果、選択性の高い殺虫剤の体系的な使用は土着カブリダニ類の密度を高め、ハダニ類の蔓延を抑制できることが明らかになった。またこのような防除体系を実施していると、一時的にハダニ類の密度が高まった場合でも、殺ダニ剤の1回散布（いわゆるレスキュー防除）を実施することにより、収穫時期までハダニ類の密度を低く保つため、結果的に殺ダニ剤の年間使用回数は少なく、多くの場合1回であった。これに対し、殺虫スペクトラムの広い剤を用いる慣行の防除体系を実施していると、カブリダニ類の密度が低いため、殺ダニ剤の残効期間が過ぎるとすぐにハダニ類の密度が高まり、追加防除が必要になるケースが多かった。当然殺ダニ剤の年間使用回数は多く、多くの場合3回必要であった。

2. 天敵製剤（ミヤコカブリダニ製剤）および天敵の定着・保護効果が期待できる資材（バンカーシート）のリンゴ園地での有効性を検討した。ミヤコカブリダニ製剤を早期から放飼することにより、園内ではミヤコカブリダニが継続的に観察され、またハダニ類の密度も低く保つことが可能であった。しかし、ミヤコカブリダニが継続的に観察されている試験区では、フツウカブリダニの密度も早期に増加する傾向が観察された。

これらの結果は、リンゴ園地でカブリダニ類の密度を高め、ハダニ類の蔓延しにくい園地環境を構築するにあたって重要なポイントは、現時点では以下の2点であることを示している。

- ①殺虫スペクトラムの広い剤の使用を減らす
- ②天敵製剤の放飼は必ずしも必要ではない

The control of spider mite should be easy; introduction of case studies at the apple orchards in Iwate prefecture over several years.

Hiroshi Hada